活動報告2022年度

2022年度地域活動助成費【社会貢献】

川越市「玉力製菓」との商品開発企画

総合政策学部　木暮健太郎

玉力製菓での商品開発

総合政策学部の教育目標の一つが、社会における課題の発見と解決である。そこで今回、地域における具体的な課題の一つとして設定したのが、埼玉県川越市である。小江戸・川越とも呼ばれるように古くからの街並みが残る川越は従来、多くの観光客でにぎわう場所でもあった。しかしながら、新型コロナウイルスによるさまざまな自粛や行動制限により、観光客は激減し、各店舗の売り上げも減少傾向にあった。かつての賑わいを取り戻すために、菓子屋横丁に位置する創業100年の「玉力製菓」と総合政策学部に所属する学生有志による商品開発プロジェクトを企画した。

学生によるアイディア

有志学生による商品開発のアイディアは、食べるまで何味かわからない「謎飴」というものであった。特に若い世代にアピールするための試みであったが、販売当日は多くの世代からの興味・関心を集めた。結果として、2023年1月28日（土）、29日（日）の2日間を通じて400個を完売し、地域の賑わいに貢献することとなった。

学生の感想

2年男子：老舗の玉力製菓さんとの度重なる打ち合わせを通じて、社会人として必要なスキルを学ぶことができた。また自分たちが発案した商品を実際に販売し、店舗の売り上げに貢献できたことは非常に大きな自信と成長につながったと感じる。今後も地域との関わりを大切にしていきたい。

活動を通じて

地域課題の解決においては、教室にいるだけではなく、実際にその地域に赴き、活動することが何よりも重要であることを改めて感じたプロジェクトであった。また学生が主体的に課題発見と解決に関わることを通じて、自らの学びを深め、学びのモチベーションを向上させることにも結び付くと感じている。今後もさまざまな地域で活動を継続させていきたい。